

## 多摩川自然情報館「夏休みイベント」

今年も多摩川自然情報館で、夏休みイベントを開催します。

**日時**／7月21日（土）午前10時～午後4時

**内容**／ふれあい移動水族館～多摩川の魚・カメ・カニにさわってみよう～

- ・生きものプールの生物観察
- ・アメリカザリガニつり
- ・情報館ものしりクイズ～クイズに答えて景品をもらおう～
- ・壁面緑化で収穫したゴーヤのプレゼント（先着順・数量未定）
- ・カプトムシのプレゼント（抽選※午前10時～正午に抽選券配布、中学生以下対象）



## 中小規模事業所を対象とした、省エネルギー研修会

省エネルギー対策は、地球温暖化防止のほか、エネルギーコストの削減につながり、また事業所のイメージアップにもつながります。

研修会では、省エネルギーの進め方や、全業種に共通の省エネ対策として、照明の照度管理や間引き方法、空調設備の温度管理や運転時間の短縮などを中心とした、すぐにできる省エネ対策、東京都の中小規模事業所向け支援策等について説明します。

**日時**／7月31日（火）午後7時～8時30分

**会場**／教育会館2階会議室（小島町2-36-1）

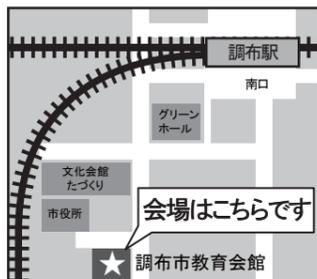
**講師**／東京都地球温暖化防止活動推進センター  
技術専門員 石澤敏彦氏

**対象**／これから省エネ対策に取り組むまたは  
取組を開始して間もない事業所の方

**定員**／申込順30人

**費用**／無料

**申込み**／7月6日（金）～7月20日（金）に  
電話で環境政策課 ☎481-7086へ



## 「たばこのめいわく」ポスター&標語を募集します

歩きタバコやポイ捨てで困っている気持ちを標語やポスターで表現してみませんか。喫煙者にマナーの向上を呼びかけましょう。なお、応募者全員には参加賞を、さらに入賞者には記念品を贈呈します。

### 【ポスターの部】

画材や標語は自由です。A3サイズまでの大きさで、ご応募ください。

**対象**／市内在住、在学の小・中学生（1人1作品）

### 【標語の部】

形式は自由です。短文にまとめてご応募ください。

**対象**／市内在住・在勤・在学の方

（1人で複数作品の応募可）

### 【各部ともに申込み】

作品に住所、氏名（匿名希望の場合はペンネームも）、  
学校名・学年を明記し、9月3日（月）まで（必着）に、

〒182-8511 市役所環境政策課（市役所8階）へ郵  
送または持参

このニュース誌の感想やご意見がありましたら、お気軽に環境政策課へお寄せください。

ちょうふ環境にゆ〜す



## 未来へつなぐ調布の環境

●発行：調布市環境部環境政策課

●連絡先：電話：042-481-7086（直通） F A X：042-481-7550

メールアドレス：kankyouto@w2.city.chofu.tokyo.jp

※市ホームページでも、環境情報を提供しています（トップページ左下からリンクしています）。

2012年7月  
第13号

刊行物登録番号  
2012-70



## 夏の節電にご協力ください



今夏は、東京電力管内での目標数値は定められてはいませんが、全国的には夏の節電が求められています。今年は、無理のない節電をしながら、省エネ・地球温暖化防止への取組をお願いします。

首都圏の1日の電力需要のピークは午後1時～4時ごろです。このピーク時の電力使用量カットにご協力をお願いします。

空調器具 	冷房は28℃以上に設定
照明器具 	エアコンのフィルターはこまめに掃除
テレビ パソコン 	白熱電球を電球型蛍光灯やLED電球に交換
台所の 家電製品 	使わない部屋の照明はこまめに消灯
掃除機 	テレビの画面は明るすぎないように設定
電化製品全般	テレビの音量を必要以上に大きくしない
	パソコンを使用しないときは電源を切る 使用しない時間が短時間の場合は、スタンバイの活用をするなど、 電源オプションを見直す
	ポットや炊飯器の保温機能を長時間使用しない
	冷蔵庫に熱いもの入れるときは、冷ましてから
	冷蔵庫には、ものを詰め込みすぎない
	フローリングや畳の掃除は、掃除機の出カレベルを「弱」に
	掃除機の紙パック交換など、掃除機内のごみ捨てをこまめに
	使用しないときは電源を切る すぐに使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く

## 調布水辺の楽校の活動

5月13日、多摩川河川敷で、多摩川流域7小学校の児童と保護者83人が参加し、平成24年度の水辺の楽校の開会式が、教員・地域の環境学習ボランティアの運営により行われました。

開会式後は、多摩川にどのような生き物がいるか観察をする、水辺のガサガサを行い、たくさんの生きものを確認しました。



当日の様子

### 【確認できた生き物】

ギンブナ、タモロコ、アブラハヤ、カワムツ、ナマズ、ドジョウ、シマドジョウ、コイ科の稚魚、フロリダマミズコトエビ、モクスガニ、ミナミヌマエビ、ウシガエル、トウキョウダルマガエル、スジエビ、アメリカザリガニ、コオニヤンマ(ヤゴ)、ハグロトンボ(ヤゴ)、サナエトンボの一種、ヒラタドROMシ、ヒゲナガカワトビケラ、カワゲラの一部、ヒル目の一部、チラカゲロウ、アメンボ、キボシマメゲンゴロウ

## 第40回調布市環境フェア ～あなたから始まる、地球の未来～を実施しました

6月2日午前10時から調布市環境フェアを開催しました。調布市環境フェアは毎年6月の環境月間にあわせ、市民の方に環境を見つめ直し考える機会を持って頂くため、様々な展示や体験ブースを設けています。今年は市内外から総勢25の市民団体、企業、行政機関が参加しました。

初夏の汗ばむ天気でしたが、たくさんの来場者

が、体験コーナーでのリサイクル工作に取り組んだり、出展ブースの展示を熱心に読む様子が見られました。今年度は、壁面緑化の普及・啓発としてゴーヤやアサガオの苗の無料配布も実施し(先着順)、開会前から行列ができたりと、にぎわいのある会場となりました。



当日の様子



## 環境モニター活動

今年度の環境モニターは、多摩川の植物図鑑の更新版を制作します。また、多摩川を中心とした通常の観察活動も行っています。

### 第1回 多摩川の自然

本年度第1回の活動となる6月9日は、あいにくの雨により、通常の観察を中止して講義のみの実施となりました。

講義ではこの活動のサポーターでもある講師の戸部氏より、多摩川が調布の地形や自然環境にもたらした影響や、外来種の繁殖などによる調布の多摩川河川敷で見られる植物の変化などについての説明が行われました。

講義の後は、サポーターを中心として、植物図鑑の企画会議を行いました。



第1回活動の様子

## 第3回多摩川の外来植物駆除 ～守ろう多摩川のいきもの～を実施しました

多摩川には様々な外来植物が生育しており、在来の植物の生育環境が減ってしまいました。

多摩川の生物多様性を保全するために、生態系に悪影響を及ぼす特定外来生物であるアレチウリやオオキンケイギク(植物)の駆除をするイベントを一般社団法人生物多様性保全協会と調布市が共催で6月16日に開催しました。

当日は、多摩川自然情報館で特定外来植物の被害や生態、これまでの駆除後の状況についての説明後、多

摩川の河原でアレチウリ 45.5kg とオオキンケイギク 14kg の駆除を行いました。

参加者からは、「一度繁殖してしまったものを取るのには難しいですね」「大変だったが、やりがいがあり熱中してしまった」などの感想を話していました。



第3回活動の様子

## ホタル鑑賞会を開催しました

調布市野草園で、ホタル観賞会を6月1日から3日まで開催しました。

この観賞会は20回を超える歴史あるイベントで、今年で24回目を迎えました。また、近年は寒さや震災の影響などで開催が見送られていたため、3年ぶりの開催となりました。

今年は、スポーツ祭東京2013のマスコットキャラクター、「ゆりーと」も駆けつけました。ホタルを楽しむとともに、子どもたちから「ゆりーとコール」を受け、とても嬉しそうでした。

ホタルを鑑賞している人々からは、「すごく幻想的

だね」「今年のホタルが今までで一番たくさん飛んでいる」などの声があり、園内を飛び回るホタルの光を楽しんでいました。

園内で発生したホタルは各日250匹を上回り、最終日には約350匹ものホタルが幻想的な舞で夜空を彩りました。

来場者は3日間で4,348人と、大変賑わいのあるイベントとなりました。



会場に来たマスコット「ゆりーと」

## 柏野小学校で田植えを体験

6月15日、柏野小学校5年生70人の子どもたちが、総合的な学習の時間を利用して、田植えを行いました。

当日は暑い日差しの中、佐須地域で活動している「田んぼの学校」代表と、同校PTA会長指導のもと、学校敷地内の小さな水田に手で植えていきました。

初めて体験する子どもたちも多く「初めてやって、楽しく出来た」「少し歩きづらいなあと思ったけど、

またやりたい！」など、楽しみながら農業の体験を行うことができました。

この後、大切に育て、秋の収穫も体験するそうです。



活動の様子

## 二ヶ領上河原堰で鮎の稚魚が遡上

多摩川緑地公園近くの多摩川にある取水ぜきの二ヶ領上河原堰に新しい魚道が完成し、鮎の稚魚が遡上をしていました。

鮎の寿命は1年で「年魚」とも呼ばれ、川で生まれ、稚魚の時は海で育ち、その後、川に戻る魚です。春から夏にかけて海から川へ遡上し、この時期は調布市の多摩川周辺に遡上しています。また、コケを主食としていて、夏の鮎はスイカの香りがすることから、香魚とも呼ばれています。

稚魚の大きさは7センチくらいのため、なかなか遡上するところを見ることが難しいようですが、じっと見つめていると、小さな影が一瞬懸命上流に向かって登っているのが確認できました。

堰をご覧になる場合は、川の流れなどに注意してください。



新しい魚道の様子